

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

京都大学

前期日程

科目	英語
----	----

総 括

難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
分 量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総 論〉

大問の構成は4題で変化なし。読解問題では、昨年とは異なり大問Ⅰ、Ⅱの両方で下線部内容説明問題が出題された。それ以外は英文和訳問題だが、Ⅱの(3)では抽象的な箇所を補足説明した上で和訳することが要求された。Ⅰで問題文の総語数が700語以上となり、昨年よりも分量は増えた。難易度は平年並みだが、相変わらずいざ取り組んでみると解答作成に苦労する問題が多い。

英作文では、Ⅲの和文英訳は例年通りの出題形式で分量も難易度も例年並みだったが、英訳がやや難しい箇所があった。Ⅳの条件英作文は世界を住みやすくするためにできることについて述べるもので、分量は昨年と同じであったが、人工知能に関する論証が求められた昨年よりも易化したといえるだろう。

〈特記事項・トピックス〉

- ・大問Ⅰ、Ⅱの両方で下線部内容説明問題が出題された。
- ・条件英作文で、パラグラフ構成についての指示は2025年度ほど詳しくなかったが、主題の提示、論証、結論の順で書くという旨の指示が英語でなされていた。

〈合格への学習対策〉

(英文解釈)

読解問題では、下線部和訳問題を中心に、下線部内容説明問題が出題されることが多い。標準～やや難しいレベルの語彙力を確実なものにすることは言うまでもなく、普段から抽象的で難易度の高い英文に触れ、複雑な文構造を正確につかみ、自然な日本語に置き換えて訳す練習と、抽象的な表現や代名詞が具体的に何を指しているのかを意識した読解演習を十分に積んでおくことが必要である。

(英作文)

和文英訳では、和文全体をしっかりと読み、その大意を自分が確実に使いこなせる語彙で表現する練習を十分に行うこと。条件英作文では、出題者がどのような内容を記述することを求めているかを把握し、それに焦点を合わせた記述を行う訓練が必要である。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	分野・テーマ(表題)	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
I	記述	読解総合「大気生物学の発展」	(1) 下線部和訳 文の構造は比較的単純で訳しやすい。冒頭の Aerobiology は第1パラグラフに出てきており、語注がついているのでこれを見逃さないようにしよう。get refocused の意味がとらえにくい。第1パラグラフの the low visibility of aerobiology や、直前の文の refocus aerobiology research を参考にして意味をつかみたいところ。expedition については第8パラグラフ第6文の On a separate expedition, they climbed Mount Erebus と述べられていることがヒントになるだろう。 (2) 下線部和訳 下線部(1)と同様に、文の構造の把握で悩まされるようなことはなかっただろう。語句についても、diversity, microbes, overwhelming などは標準的な語なので確実に訳したいところ。most new to science の most と new に主語・述語の関係があることに注意。	やや易

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

Ⅱ	記述	読解総合「古代メソポタミアから学ぶ知識の保存」	(3) 下線部内容説明 The air, it turned out, was a zoo.という文の意味をパラグラフの内容に即して説明するもの。a zooはここでは比喩表現で、これが何を表しているかを考える。該当箇所は直前にあり、わかりやすい。該当箇所の内容をどこまで解答に盛り込むべきかの判断が難しいが、解答欄が11行あることと、設問の指示に「具体的に」と書かれていることから、ある程度詳細な内容を書き込むことができると判断できる。 (1) 下線部和訳 if only ...や Just as ..., so SV ~などの頻出の表現をきちんと和訳できるかがポイントとなる。 (2) 下線部の内容説明 下線部にある to do so は前文 to assume ... the third millennium AD をまとめる。解答欄の大きさからそれだけでは不十分だと考えられるので、同パラグラフ内から、なぜ a fallacy なのかについて述べている箇所を抽出してまとめればよい。 (3) 下線部和訳＋抽象語句の内容説明 和訳に関しては、come full circle「一周回って元に戻る」以外は平易な語で構成されているので、長さの割には取り組みやすかったと思われる。from writing ... to returning ~の箇所は、前にある come full circle を具体的に述べているのだということが分かっていなければ上手く訳せないかもしれない。returning to them の them は(clay) tablets を指すが、設問は「内容を補足しつつ」という指示なので、同パラグラフ前半で述べられている内容を参照し、どういう tablets なのかを具体化する。	標準
Ⅲ	記述	和文英訳「人生の選択は覚悟を伴う」	2021年[3]の英作文と類似した考えがテーマになっており、全体的に基本的な英語を用いて書くことが可能である。「事前に入念に検討し」の目的語が明示されていないので、「選択の結果」などを補って書く必要がある。「…するほかない」は「…するのが唯一の方法だ」と読み換えたり、「…と腹をくくる」の部分も「…を受け入れる勇気を持つ」などの工夫が必要である。	標準
Ⅳ	記述	条件英作文「世界を住みやすくするためにできること」	世界を住みやすくするためにできることを1つ挙げ、80語～100語の英語で説明させる問題。パラグラフ構成についての指示は2025年度ほど詳しくはなかったが、主題の提示、論証、結論の順で書くという旨の指示があった。	やや易

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階【難・やや難・標準・やや易・易】で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

出典・資料 ※該当する場合記入

- | |
|---|
| I Carl Zimmer, <i>Air-Borne: The Hidden History of the Life We Breathe</i> (2025)
II Selena Wisnom, <i>The Library of Ancient Wisdom: Mesopotamia and the Making of History</i> (2025) |
|---|